

A、E、Gの各保険はP.71～73のA、E、Gに対応

新規に加入する保険

新規加入する生命保険

**A 変額終身保険**  
 死亡保障 500万円  
 月々の保険料 9996円  
 支払い総額 263万8944円

変額終身保険500万円へ。現在の保険を解約した解約返戻金で、変額終身保険100万円分を一括購入。残り400万円を新規に

新規加入する定期保険

**E 家計保障定期保険**  
 死亡保障 月5万円×22年  
 年払い保険料 3万2940円  
 支払い総額 65万8800円

夫が死亡したとき、遺族に毎月生活資金として保険金が支払われる保険へ。一時金として一括受け取りも可。63歳払込終了。

新規加入する医療・ガン保険

**G ガン保険(医療特約付)**  
 入院日額2万円  
 月々の保険料 8722円  
 支払い総額 約376万円

10年更新型から保険料が上がらない終身型へ。ガン保険に特約で医療保障を確保。ガンは日額2万円、それ以外は日額1万円。

見直し保険の支払い総額 約705万円

現在加入している保険

健一さんの生命保険  
**収入保障特約付終身保険**  
 死亡時保険金 500万円  
 月払い給付金額 5万円  
 保険期間 終身(65歳まで)  
 月々の保険料 1万4420円  
 支払い総額 約450万円

健一さんの医療保険  
**10年間更新型医療保険**  
 入院給付金 日額1万円  
 1入院に対する入院日数 730日型  
 保険期間 10年  
 月々の保険料 5140円  
 支払い総額 約220万円

健一さんのガン保険  
**ガン保険**  
 入院給付金 日額1万円  
 保険期間 10年  
 月々の保険料 3472円  
 支払い総額 約340万円

現在の保険の支払い総額 約1010万円

こう見直す!

約1010万円ー約705万円＝約305万円のダイエット!



鶴見家データ

夫・健一さん43歳、妻・幸子さん33歳。健一さんは公務員で年収は800万円ほど。幸子さんはパートに出ている。賃貸住宅で2人暮らし。

鶴見家の保険内容(保険料はすべて月額)

- 夫  
 生命保険(終身保険) 1万4420円  
 医療保険 5140円 ガン保険 3472円
- 妻  
 終身医療保険 2270円  
 積立利率変動型終身保険 約7000円(ドルの積立)
- その他  
 自動車保険 9980円

保険料総合計 4万2282円



夫・健一さんの現在の保険は、終身保険、医療保険、ガン保険とそれぞれ個別に加入。終身保険500万円に月額5万円の収入保障が特約としてつき、現在の死亡保障は約1500万円ある。「子どもがいない共稼ぎ家庭では十分すぎる額」と宮越氏。ただ、現在の定額終身保険は、浜山家(70、71ページ)でも紹介した変額終身保険への見直しを提案する。「一生涯保障額が変わらない定額終身保険では、将来の物価上昇リスクに対応できません。株などで運用する変額終身保険なら、景気がよくなると株があがり死亡保障額も増える

変額保険で物価上昇リスクに対応  
 入院日数は120日で十分!

ので、インフレリスクに対応できる。運用実績が悪くても最低保障額があるので安心ですよ」

医療保険については、「1入院に対する入院日数730日」を疑問視。

「1入院の保障日数が多いほど安心感がありますが、保険料はそれだけ高くなるんです。国の政策でも短期入院の流れになってますから、1入院120日あれば大丈夫でしょう」とはいえ、幸子さんはガンによる

長期入院が心配と言う。そこで宮越氏は、ガンでの入院保障が日数無制限かつ保険料が安い「21世紀がん保険」(アメリカカンファミリー生命)をオススメ。これに「特約MAX」をつけ、ガン以外の病気になる120日までカバーする案を提示した。

上の新規加入プランにはないが、「長期収入サポーター保険」(日立キャピタル損保)も紹介。この保険は、病気やケガで長期自宅療養を余儀なくされたとき、月々一定額の保険金がもらえるもの。幸子さんもパートで働いているが、健一さんの年収が800万円と高いだけに準備しておくのもひとつの考え方だとか。

見直しの結果、一生涯の保険料支払い総額を約305万円切り詰めることができた。